

西武鉄道、全従業員約 3,600 名で kintone を全社基盤として活用

大規模利用向け「ワイドコース」でデータに基づくガバナンスの徹底と活用促進を両立

サイボウズ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：青野慶久、以下サイボウズ）は、西武鉄道株式会社（本社：埼玉県所沢市、代表取締役社長：小川周一郎、以下西武鉄道）の「kintone（キントーン）」活用事例を公開しました。

西武鉄道は、紙による業務運用からの脱却を目指し、2025 年より全従業員にあたる約 3,600 名で kintone を活用しています。大規模利用向けの「ワイドコース」の機能でアプリの利用状況を可視化することで、データに基づくガバナンスの徹底と活用促進を両立し、1,600 を超えるアプリを開発しています。



kintone を全従業員 3,600 名が利用する市民開発基盤として導入し、業務のデジタル化を実現し、業務改革風土を醸成

■kintone 導入の背景

西武鉄道で社内基盤の整備を担う情報システム部は、「デジタルネイティブ企業への転進」を長期ビジョンに掲げ、デジタルツールによる業務効率化を目指し、質にこだわった育成・支援を通じて DX を推進しています。その第一歩として、まずは紙での管理をデジタル化する「デジタイゼーション」の徹底を図るべく、業務基盤の整

備に着手しました。同社では、DX には現場での活用促進が不可欠だと考えており、現場がアプリを開発し、業務改善を実行できるソリューションを求めています。そこで、情報システム部では、IT の知識がなくてもノーコードで柔軟にアプリを開発できる kintone に着目。さらに、2023 年より一部の部署で kintone が導入されており、さまざまな外部システムとの連携が可能であることが実証済みであったことから、全社展開の際に、幅広い業務に適応できると考えました。また、パソコンを持たない現場の従業員向けに、タブレット端末を導入していたため、タブレットでも利用できるインターフェースを備えていることも必要条件となっていました。これらの条件を踏まえ、2025 年に kintone の全社導入に至りました。

■ワイドコースの「アプリ分析」機能を活かし、ガバナンスと活用促進を両立

現在は、西武鉄道全従業員にあたる、約 3,600 名が kintone アカウントを持ち、大規模利用向けのワイドコースを選択しています。同コースの機能のひとつである「アプリ分析」機能を活用し、ガバナンスと活用促進を両立しています。具体的には、「アプリ分析」機能のレーダーチャートなどでデータ数やアプリの複雑性を可視化し、その利用状況を軸に、一定期間使われていないアプリの棚卸しを行うなど、アプリや部署の状況に合わせたガバナンス対応を行っています。さらに棚卸し前には、同機能で生成したアプリ相関図を元にアプリ間の参照関係を確認し、棚卸しによる不備の発生を防いでいます。また、最終ログイン日やアクセス頻度などをもとに十分に利用できていない部署を把握して、kintone の講習会を打診したり、部署の中でアプリの活用率が高いメンバーを特定し、kintone を社内に広げるキーパーソンとして活動してもらう施策を立案したりするなど、活用促進にも役立てています。



「アプリ分析」機能のアプリ分析結果画面

■1,600 以上のアプリ開発を支える運用体制

同社では現在、約 1,400 のアプリが開発・試行中で、約 200 のアプリが実際に活用されています。実際に使用しているアプリの運用にあたっては、「アプリ分析」機能の活用に加え、情報システム部が、サポートデスクやアプ

り開発の伴走を委託している外部企業と連携しつつ、kintone 全体の運用管理を行っています。

アプリの開発から実際の使用にあたっては、各部署向けに開発用と本番用のスペースをそれぞれ設けて、段階を踏むフローをとっています。開発用スペースでは、従業員が自由にアプリを開発できるようにし、本番で使用する段階になったら、情報システム部がアプリの入力項目や管理権限の設定が運用ルールに則って適切に構築されているかなどのチェックを行ったうえで本番スペースへアプリを移動させ、使用を開始しています。

また、アプリ開発に使用するプラグインについては、各部署からの要望を受けて情報システム部が有効性と安全性の確認を行ってから、利用を開始する運用になっており、現在活用できるプラグイン数は 60 以上に及びます。

■今後の展望

kintone を全社的な市民開発基盤としたことで、同社における紙の削減によるデジタイゼーションは確実に実現しています。また、アプリ開発の心理的ハードルを下げる取り組みにより、従業員一人ひとりに自ら業務を変えられるという意識が根付いたと実感しています。一方、全社的に活用が進んでいるなかで、kintone に触ったばかりの初心者から、複数のアプリを開発できる熟練者まで、従業員の活用の段階にはまだ差があるのが現状です。情報システム部では、各従業員の習熟段階に合わせた支援施策や、コンテンツ発信の強化や事例共有などの横展開を実施して、活用スキルの全体的な底上げを図る予定です。

今後も、各部署からの要望や業務に応じて、kintone の AI 機能なども活用し、kintone の活用領域を広げていく意向です。

■西武鉄道「kintone」活用事例の詳細

活用事例の詳細については、kintone 製品サイトの導入事例ページにてご紹介しています。

URL : <https://kintone-sol.cybozu.co.jp/cases/seiburailway.html>

■kintone について

東証プライム上場企業の 46%を含む、国内 41,000 社以上が利用しているサイボウズの業務改善プラットフォームです（2026 年 9 月末時点）。IT の知識がなくても自社の業務に合わせたアプリをノーコード・ローコードと AI で作成でき、素早く低コストで業務改善を実行できます。主な機能として「データベース」「コミュニケーション」「プロセス管理」があり、顧客管理、出張申請、業務日報など幅広い用途で活用できるため、現場主導の継続的な業務改善を実現します。

製品サイト : <https://kintone.cybozu.co.jp>

報道関係者様からのお問い合わせ先

サイボウズ株式会社 広報

〒103-6027 東京都中央区日本橋 2-7-1 東京日本橋タワー 27 階

TEL: 03-6757-1250 / MAIL: pr@cybozu.co.jp

※商標・著作権表示に関する注記については、こちらをご参照ください。

<https://cybozu.co.jp/logotypes/trademark/>